

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B 3.3	・学校教育目標(知・徳・体)の具体化について共通認識を深める機会を確保する。目指す学校像やランドデザインを充実させ、PDCAサイクルにより効果の検証、改善を重ねる。情報共有から組織的な指導や対応を充実させる。	A 3.5	・生徒、保護者、教職員の回答の90%以上が肯定的回答である。 ・生徒数が少ないこともあると思うが、教職員が一人一人生徒の名前がわかることもあり、落ち着いた学校生活ができている。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	B 3.1	・不審者対応等の避難訓練を計画し実施する。 ・校内の安全点検は、分掌の枠を超えて教職員同士が声を掛け合い実施する。 ・自転車通学者の指導を定期的に行う。保護者の名札着用率向上を依頼する。	A 3.4	・生徒、保護者の肯定的回答が90%以上である。 ・安全、安心について、様々に工夫していると思う。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A 3.4	・全国、県学力・学習状況調査等の分析をもとに、指導方法の工夫改善に取り組む。 ・複数教員による指導を充実させる。ステップアップ教室の参加率向上に取り組み、学習機会を確保する。	A 3.5	・生徒、保護者、教職員の回答の90%以上が肯定的回答である。 ・ステップアップ教室の開室など生徒の学力向上に向けて取り組んでいる。継続することが大事である。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A 3.5	・iPad等のICT機器の活用とともに、「書くこと」や「個別最適な学び」、「協働的な学び」など、多様な学習を展開して、その成果を検証し継続的に取り組む。 ・「AIDリル」等の活用機会をさらに増やす。	A 3.5	・生徒、教職員の肯定的回答が90%以上であるが、保護者回答との差異がある。 ・生徒の実態を踏まえた授業改善を進めている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B 2.9	・生徒の声出し(挨拶・返事など)への抵抗感を軽減するため、教員が率先して挨拶を行う。 ・委員会活動等を通じて、規律ある態度育成に関するキャンペーンを実施する。	A 3.4	・生徒、保護者の肯定的回答は90%以上であるが、教職員回答は90%未満である。 ・集団生活のルールやマナーに基づいた規律ある態度が定着するよう学校生活を通じて指導している。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B 3.2	・今年度の課題を次年度に引き継ぎ、年間を通じたキャンペーン等を計画・実行する。 ・生徒会活動を中心とした啓発活動、点検活動など工夫して取り組ませ、生徒主体の活動を活性化させる。	A 3.4	・生徒、保護者、教職員の肯定的回答はほぼ90%を達成している。 ・規律ある態度の指導の工夫改善に努めている。整理整頓の項目が課題である。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B 2.9	・外遊びの促進に向け、時期に合わせたキャンペーンを実施する。 ・わかりやすい体育授業から意欲や技能を向上させ運動好きな生徒を育てる。	B 3.3	・生徒、保護者、教職員の回答のうち、肯定的回答が90%を下回っている。 ・生徒による意欲や取組の違いを踏まえた向上が求められる。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B 3.3	・部活動の適切な運用から意欲を高める。 ・健康への取組は、保健委員会等を中心とした啓発活動を継続し、体育授業や委員会活動の工夫により体力向上に取り組む。雨天時に体育館開放を行う。	A 3.4	・保護者、教職員の肯定的回答は90%以上であるが、生徒は90%を下回っている。 ・生徒の健康に配慮し、体力向上に努めている。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B 3.1	・地域人材が関わった活動から、生徒が何を学んだかを発信する機会を増やす。 ・学習支援や部活動など、生徒の学びの過程において地域の方に直接支えてもらう場面を拡充する。	B 3.3	・生徒、保護者、教職員の回答のうち、肯定的回答が90%以下である。 ・保護者との意思疎通を一層図り、教育力を生かしてほしい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	A 3.4	・個人面談を充実させ、学校、家庭の連携を一層深めて生徒の指導、育成にあたる。 ・生徒の心の状態を客観的に把握するため、教育心理検査を導入し、指導や家庭へのフィードバックに活用する。	B 3.3	・保護者、教職員の概ね90%が肯定的回答であるが、生徒は下回っていて差異がある。 ・生徒が安心して生活し、健全に成長できるように取り組んでいる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満